

# テレビドラマや映画を使った 英語学習と語法の研究

渡 邊 信

私にとって話す・聞く英語(Spoken English)のプラクティスは一生のコミットメントである。英語の修行の為には割と恵まれた環境にいると思う。研究室の同フロアにネイティブ・スピーカーが数人いるし、専攻の会議は英語で行なわれ、外国語学部で英語と英語学を担当しているので授業でも英語を使うことを求められている。英語学習歴も30年以上になりその間10年近くのアメリカ滞在を経験したが、数日英語を話さないでいると、すぐに口の動きが滑らかでなくなり不安になる。(感じなくてもいいかもしれない)ノン・ネイティブスピーカーとしての限界を感じて落ち込むことも多い。

生涯継続しなければならぬとしたら Spoken English の研鑽は楽しくなければ、意志の弱い私などはすぐ挫折してしまう。人によっていろいろなやり方があると思うが、具体的に私が行っているのは、毎日少なくとも30分、お気に入りの映画かテレビドラマを使ってシャドウイングをすることだ。といっても何も難しいことをしているわけではなく、リモコン片手に一文ずつ止めて、セリフをできるだけ正確に復唱する(慣れない作品の場合にはもちろん字幕はもちろんオンにしておく)。この毎日の単純作業が Spoken English の向上・保持にとっても役立っている。

日経新聞の土曜版『日経プラスワン(2010年1月16日発行)』に、『長続きする社会人の英語勉強法』というアンケートの調査結果が掲載されていた。対象はTOEIC 730点以上相当の社会人376人。首位は「英語の映画やテレビドラマを見る」で、2位の「ラジオの講座を聴く」を大きく引き離れた。こ

これはあくまで1例に過ぎないが、私の英語・英語学の授業でも教材に映画・テレビ番組を使用すると学生の目が輝く。大人の英語学習者に(そしておそらく児童・生徒にも)これだけ人気のある英語学習教材としての映画・テレビドラマであるが、指導者の数が少ないのが残念ながら現状だろう。私の学部と大学院のゼミには英語教師志望者も多いので、映画やテレビ番組を使った英語学習・語法研究に詳しく、また映像教材に高いリテラシーを持った教員を養成していければと思う。

.....

さて私の専門は英語の語法研究である。難しく聞こえるかもしれないが、要するに英語表現の用法や意味を正確に把握し記述することである。映画・テレビドラマでは、当然のことながら **Spoken English** が映像とセットで提供されるため、意味が把握しやすく、私にとって大変有用な研究ツールである。

まず、スクリプトを **Simply Script** (<http://www.simplyscripts.com/>) などのウェブ・サイトからダウンロードしテキスト形式で1つのファイルに保存する(これがいわゆるコーパス)。調べたい表現の用例を **Em Edior** (エムソフト社製のテキストエディタ) などを使って網羅的に検索し、映像と照らし合わせながら1文1文その使われ方や意味などを確認していく。辞書、論文、書籍などでははっきりしなかったことも映像を実際に見ることで理解が進むし、新しく発見することも多い。

**Spoken English** を学んでいて強く思うのは、そこには厳密な発音のルール、書く・読む英語(**Written English**)にはない文法規則や表現が数多くあり、それらの逸脱や誤用は<外国人訛り>としてネイティブスピーカーに認知されてしまうということである(しかし **Written English** が正しい英語で、**Spoken English** は **Written English** をアドホックに省略したり、文法のルールを逸脱したもの、などと直観的に考えられていないだろうか?)

以下具体例として *after all* を考察してみたい。なぜ *after all* かというところ、これは極めてパーソナルである。あまり深く考えずに「やはり(やっぱり)」「結局」などと翻訳することが多かったが、学生と改めて議論してみると、この表現の意味を私自身が正確に理解していないことに気づいて愕然とした(まあ、こういうことはよくあるのではあるが)。

テレビドラマ・映画からの用例をいくつか考えてみよう<sup>1</sup>!

- (1) Hey, Mon. I don't think I can help you *after all*. (*Friends* 8-3-9<sup>2</sup> *One with the Rumor*)
  
- (2) Sorry, Dino. I guess a dinosaur hunt wasn't such a hot idea *after all*, huh?  
(*Full House* 5-2-9 *Happy Birthday, Babies Part 2*)
  
- (3) This is a debate class, *after all*. You guys split into Affirmative and Negative. (by Nicolas Struc in his class *Debate and Discussion*, given to me by Takahiro Tanaka in p.c.)
  
- (4) Why did he fire you? - Total failure to achieve any of the objectives for which I was hired. I told him he was being unreasonable. *After all*, I did get to dance with the President and ride *in* Air Force One a couple of times. But you know those prickly environmentalists. It's always gotta be something with them. If it's not clear air, then it's clean water, like it's not good enough that I'm on the cover of People magazine. (*The American President*)
  
- (5) There it is. You see, you have a barbarian in you *after all*. ... Good God, boy, there's a poet in you, *after all*. There, close your eyes. Close your eyes. Close 'em. Now, describe what you see. (*Dead Poets Society*)

*After all* はよく「やはり(やっぱり)」と訳される。例えば(1)は「ねえ、モニカ、やっぱり手伝えない」となるだろうか。この訳はあやまりではない。ただ、「やはり(やっぱり)」という日本語表現自体があいまい(=多義的)なので注意が必要である:<sup>3</sup>

---

<sup>1</sup> ただし(3)は例外で田中君という私のゼミ生から教えて貰った。ネイティブ教員(ニコラス・ストラック准教授)が授業中に使用したそうだ。

<sup>2</sup> *Friends* 8-3-9は『フレンズ』第8シーズン ディスク3 第9話』を表す。

<sup>3</sup> 参考までに広辞苑の「やはり」の定義は以下の通り:

- (6) a. やっぱり, だめだった. (= 思っていた通り (as I thought), だめだった.)  
b. ごめん, やっぱり, 来ちゃった. (= 来ないつもりだったけれど (In spite of what I thought), 来ちゃった.)

おなじ「やっぱり」でも(6a)と(6b)ではほぼ逆の意味を表すようだ。After all を「やはり(やっぱり)」という多義語を使って翻訳するなら、どの意味が after all の意味なのか一歩進んで考えないと本当のところ after all の意味を理解したとは言えないだろう。同様の問題を避けるために、after all に限らず英語表現の意味を考える時、まずは曖昧な日本語を使わずに翻訳するように心がけると得ることが多い。

また after all は「結局」と訳されることも多い:

(7) [Swan 2005, 33]

I expected to fail the exam, but I passed after all. (試験落ちると思ったんだけど、結局合格しちゃった.)

( )内の日本語でも意味は通るだろう。しかし、「結局」も多義語であるので上記の理由でまずは避けたい<sup>4</sup>。特に注意すべきなのは、after all には最後に、終りにあたって、finally, at last, in the end などの意味はないということである<sup>5</sup>。試しに、(1)と(2)の after all を finally と入れ替えると意味がずいぶん変わってしまう:

- 
- (i) やはり: ①もとのまま. 前と, または他と同様に. (うごかさないで) そのまま.  
②思った通りに. 案の定. いろいろ考えてみても結局は.

わかったような, わからないような, というのが正直な印象である。強いて言えば、②の「いろいろ考えてみても結局は」が(1)の after all の意味に近いだろうか。

<sup>4</sup> 広辞苑の定義は以下の通り:

- (i) 結局: ①終りになること. 結末.  
②(副詞的に) 挙句のはて. とどのつまり. 詮ずるところ.

<sup>5</sup> Swan (2005, 33), ジーニアス英和辞典第3版を参照。

(1') Hey, Mon. I don't think I can help you *finally*. (ねえモニカ、最後に手伝えなくなっちゃった。)

(2') Sorry, Dino. I guess a dinosaur hunt wasn't such a hot idea *finally*, huh?  
(ごめん、ディノ、恐竜狩りは最後には面白くなかったね！)

私は、つい最近まで *after all* は *finally* のような意味を少なくとも持ちうるだろうと思っていた。

さてそれでは *after all* はどのような意味か。本来なら実際に作品を観て意味を考えたいところではあるが紙面ではそれができないので、ここでは定評のある学習英文法書『Practical English Usage』(Swan 2005, 33) の定義をもとに考察してみよう。<sup>6</sup>

(8) *after all*:

- a. 前に言ったことと違うけど *in spite of what was said before*
- b. 予想・予測・期待に反して *contrary to what was expected*
- c. ...を忘れてはいけない *we / you mustn't forget that ...*

*After all* がどの意味で使われているか文脈から判断する必要があるが、映画・テレビドラマからの用例を使えば、この判断を場面描写(映像+音声)と突き合わせて行うことができる。*After all* の意味を理解するためには若干冗長で不自然になってもかまわないので(8a-c)に沿って訳出してみるとよいと思う。

例文(1)-(5)の意味を再考してみよう。今度は(8a-c)に沿った<直訳>を矢印の左側に、より自然な日本語に修正した<意識>を右側に記した。また(8a-c)のいずれかに対応する部分には下線を施した:

(1) Hey, Mon. I don't think I can help you *after all*.

ねえ、モニカ、さっきは手伝えるっていったけど、手伝えなくなっちゃった。

→ねえ、モニカ、さっきは手伝えるっていったけど、やっぱ

<sup>6</sup> Swan は(7a)と(7b)を明確に区別していないがここでは便宜上分けて考える。

ダメ.

- (2) Sorry, Dino. I guess a dinosaur hunt wasn't such a hot idea *after all*, huh?

ごめん、ディノ、予想と違って、恐竜退治つまんないね!

→ごめん、ディノ、恐竜退治、面白いと思ったんだけどな.

- (3) This is a debate class, *after all*.

これがディベートのクラスであることを忘れないで.

→これは、ディベートのクラスなんだぞ.

- (4) *After all*, I did get to dance with the President and ride in Air Force One a couple of times.

こともあろうに大統領と踊ったし、エアフォース・ワンにも何回か搭乗したのは事実よ。忘れてはいけなわ!

→こともあろうに大統領と踊ったし、エアフォース・ワンにも搭乗したわ!

- (5) You see, you have a barbarian in you *after all*.

ほら、君は気づいていないかもしれないが君の中にも「野生人」がいる。忘れないで.

→ほら、君の中にも「野生人」がいるじゃないか.

(1)は(8a), (2)は(8b), (3)は(8c)にそれぞれ明確に対応している為問題ないだろう。(4)はやや難しいが(8c)だろう。(5)に関しての判断は非常に難しい。(8a)の意味は容易に排除できるが,(8b)と(8c)のどちらかを選択するのは困難で、むしろ(8b)-(8c)の混合用法と言った方がいいのかもしれない(もちろんこれはあくまで私の主観であって客観的な証拠があるわけではない)。

Swan (2005, 33)はさらに *after all* の意味と位置の(弱い) 相関関係を指摘している。文末の *after all* の守備範囲は広く「前に言ったことと違うけど(=8a)」、「予想・予測・期待に反して(=8b)」、「...を忘れてはいけな(=8c)」のいずれも表すことができる。一方(9)-(11)のように、文頭の *after all* は通例「...を忘

れてはいけない(=8c)」を意味する:<sup>7</sup>

- (9) Yeah, but it wasn't an order, was it? **After all, it's peacetime.** He wasn't being asked to secure a hill...or advance on a beachhead. I mean, surely a marine of Dawson's intelligence can be trusted to determine on his own which are really important orders, and which orders might, say, be morally questionable. (*A Few Good Men*)

今が平時なのを忘れてはいけません. → 平時なわけですから.

- (10) I'm definitely ready to move into my own place. **After all, I'm a grown man.** Plus, I need more shelf space for my toys. (*Full House*)

私が大人の男なのを忘れてはいけません. → 僕は大人なんだから.

- (11) **Elena:** Here it is. I'll iron it for you.

**Becky:** Oh no, I can do that..**after all, you're here on vacation.** (*Full House*)

あなたが休暇中なのを忘れてはいけない. → あなたは休暇中なのよ.

ジーニアス英和辞典に *after all* の「用法(2)」として以下の記述があるが、基本的には(8c)の用法と同じでやはり文頭に現れることが明記されている:

- (12) [前文への証拠・理由・補足・説明を示して; 通例文頭で] だって・・・だから;そもそも, お忘れかもしれませんが *You mustn't be too angry with her; after all, she is only a child.* あの娘のことであまり腹を立ててはいけません, 何とんでも [だって] まだ子供なんですから. (ジ

---

<sup>7</sup> なぜこのような相関関係があるのかは残念ながら分からない。

ーニース英和辞典第3版, 下線は筆者が施した)

*After all* は原則的には文末あるいは文頭に置かれるが、実際には挿入句的に用いられることも多い:

(13) What do you think about me writing you an urgent memo? "I think Ritchie's a more skilled debater than we're anticipating. He has, after all, debated three gubernatorial candidates and won each time." (*The West Wing, The Red Mass*)

(14) Yeah, I could be your girlfriend. I mean, after all, my husband's out of town. I could use a date. (*Joey, Joey And The Party*)

(13) と(14) において *after all* は(8c) の「...を忘れてはいけない」の意で用いられているものと思われる。

最後に拙稿を読んで下さっている皆さんに、確認エクササイズとして *after all* を含む文をいくつか日本語に翻訳して頂きたい。(8a) - (8c) と *after all* の位置を手がかりにすれば難しくはないだろう:

(15) a. History teachers often think they must avoid judgments of right and wrong because, after all, those are a matter of subjective opinions. But it's the areas of disagreement that are the most important. (Bigelow et al. 1994)

b. You know, I think that I will get some wheatgrass after all. (*Music & Lyrics*)

c. You know, the problem we have is that this latest offer of theirs will seem reasonable to everyone. We remove our missiles, they remove theirs. Our Jupiters were scheduled for removal anyway. They're obsolete, after all. (*Thirteen Days*)



d. Well, isn't it a small world after all. (*Full House* 4-3-18, *The Wedding*  
(1))

.....

英語のテレビドラマと映画が英語学習および語法研究においてとても便利なツールであることを *After all* を例に簡単に論じた。意味が難しい表現でも、その用例をテレビドラマや映画の中に見つけることができれば、映像と音声による場面設定から意味を類推することができるだろう（紙面でこの作業を再現できないのが残念である）。手元にある DVD のスクリプトをフォルダにまとめてコーパスを作成し例文を検索できるようにしておくとう用例収集の作業効率はぐんと上がるし、記述的一般化の精度も増す。調査結果を、先行研究（辞書、Swan (2005) などの良質な学習文法書、レファレンスグラマーの名著である Biber et al. (1999) や Huddleston et al. (2002), Quirk et al. (1985), そしてもちろん学術論文）と比較することで新発見（要するに「研究論文レベルの知見」）につながることも多い。本学修士課程英語教育専攻の私のゼミ生はこの手法でなかなか面白い研究成果を出し始めていると自負している。技術的な細部に立ち入ることはできないが、例えば補文標識の *that* の脱落・保持にかかわる語用論的要因、破格付加疑問節(e.g. *That's what you are thinking, aren't you?*)の生成原理、2重否定 (e.g. *We didn't do nothing*)と部分否定構文(*It's not all your fault*)に共通する意味特性などを紡ぎだすことに一石を投じた。現代において映像メディアの果たす役割は大きく、これを英語教育と語法研究に今後一層活用して行きたい。謙虚に学び日々知識を更新するとともに、後進の育成にも微力ながら力を尽くしたいと思う。

### 参考文献

- Biber, Douglas et al. Longman Grammar of Spoken and Written English. Pearson Education Limited, 1999.
- Bigelow, Bill et al. Rethinking our classrooms; Teaching for equity and justice. Rethinking Schools, Ltd., 1994.
- Huddleston, Rodney et al. The Cambridge Grammar of the English Language. Cambridge: Cambridge University Press, 2002.

Quirk, Randolph et al. Comprehensive Grammar of the English Language. Longman, 1985.

Swan, Michael. Practical English Usage. Third Edition. Oxford University Press, 2005.

### コーパス

A Five Million Wordbank from the Bank of English. HarperCollins Publishers, 2001.

### 辞書

ジーニアス英和辞典第3版. 大修館書店.